

リアスコースト南三陸
水中楽園 ⑤



シロザケのオス



マス

いくつもの呼び名を持つ「シロザケ」

今回は、皆さんおなじみのシロザケ（白鮭）を紹介いたします。

南三陸町の河川でも、毎年数多くのシロザケが遡上（そじょう）しています。人工授精や自然産卵によって産まれた鮭たちは川を下り、海へと旅立って行きます。その後4年もの間、ベーリング海などの寒い海域で成長し、再び産まれた川へと戻り産卵し、その生涯を終えます。

ところでサケは漁獲されるタイミングや成長過程により、数多くの呼名を持ちます。

まず、春から初夏にかけて漁獲されるものはトキシラズ（時不知）。また、初夏から初秋にかけて捕獲されることがあるケイジ（鮭尻）は、ロシア北部系の若いサケが回遊中に日本へ回帰する鮭に混ざり、1万本に1匹程度の割合で漁獲される、脂質が多く全身トロ状態で高価な、まさに幻のサケです。

秋になり回帰中に漁獲したものはメジカ（目近）で、同時期に河口周辺で漁獲されるアキアジ（秋味）よりも脂ののりがよく、旨いと言われています。そして、産卵を終えたサケはホツチャレ（放つておくと言う意）と呼ばれます。食べて美味しいシロザケ。力尽きて死んでしまった後も、死がいは微生物により分解され川へ溶け出し、プランクトンの栄養分となります。そのプランクトンは牡蠣などの養殖物にとつて、なくてはならない大切な栄養源となります。サケは捨てることのない魚ですね。

（写真・文 水中カメラマン 佐藤長明）

編集後記

▶南三陸町と友好町の山形県庄内町は、お互いの産業祭りに特産品を出店するなど、産業交流が盛んに行われています。▶当町のメカブと庄内町の野菜を使った加工品も売られています。▶さて、本紙21ページの「庄内の風」で「響ホール」を取り上げましたが、私は編集集中に「どのようにして町民ボランティアがホールの企画運営しているのだろうか？」と興味を持ちました。▶両町の文化交流などが、もっと盛んになることを期待しています！
担当 佐藤

●日曜当番医

- 12/3 南三陸志津川クリニック
☎47-2777(志津川字塩入)
- 12/10 上田クリニック
☎36-2316(歌津字中山)
- 12/17 鎌田医院
☎36-2008(歌津字伊里前)
- 12/24 ささはら総合診療科
☎47-1066(志津川字汐見町)
- 12/31 佐藤徹内科クリニック
☎47-1175(志津川字廻館前)
- 1/7 本田記念あおいクリニック
☎46-4530(志津川字十日町)

●第1・第3日曜歯科当番医

- 12/3 歌津歯科診療所
☎36-2321(歌津字伊里前)
- 12/17 高橋歯科医院
☎46-2631(志津川字五日町)
- 1/7 三浦歯科医院
☎42-2418(本吉町津谷明戸)

※日曜当番医は、変更となることがありますので、あらかじめ電話で確認してください。受診の際は保険証をお持ちください。